

2018(平成30年)

ハタハタ情報 No.1

平成30年9月25日発行

中央水産試験場 資源管理部

Tel : 0135-23-8707 Fax:0135-23-8709

後日、インターネットからもご覧いただけます↓

マリネット北海道 : <http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/central/index.html>

水試調査船北洋丸によるトロール調査（留萌沖）の結果を報告します。

【調査概要】 2018年9月10日～9月12日に、雄冬岬沖の水深170～330m付近においてトロールによる漁獲試験を行いました。6調査点で計33尾（0歳魚を除く）のハタハタを採集し、体長測定や年齢査定などを実施しました。

- 採集状況は昨年を上回るものの低い水準（1マイル曳網あたり平均3.1尾）
- 1歳魚（2017年級）と2歳魚（2016年級）が混在か。ただし漁獲物は小型魚主体の可能性あり
- 成熟状態（来遊時期）は雌の採集が少なく、10月調査まで見通し立たず

1. ハタハタの分布状況（図1）

今回の調査では、雄冬沖周辺の6調査点でトロールを曳網しました。全体的にはスケトウダラの採集が多く、ハタハタは1マイルあたり平均3.1尾であり、過去最低となった昨年同期を上回ったものの低い水準でした。

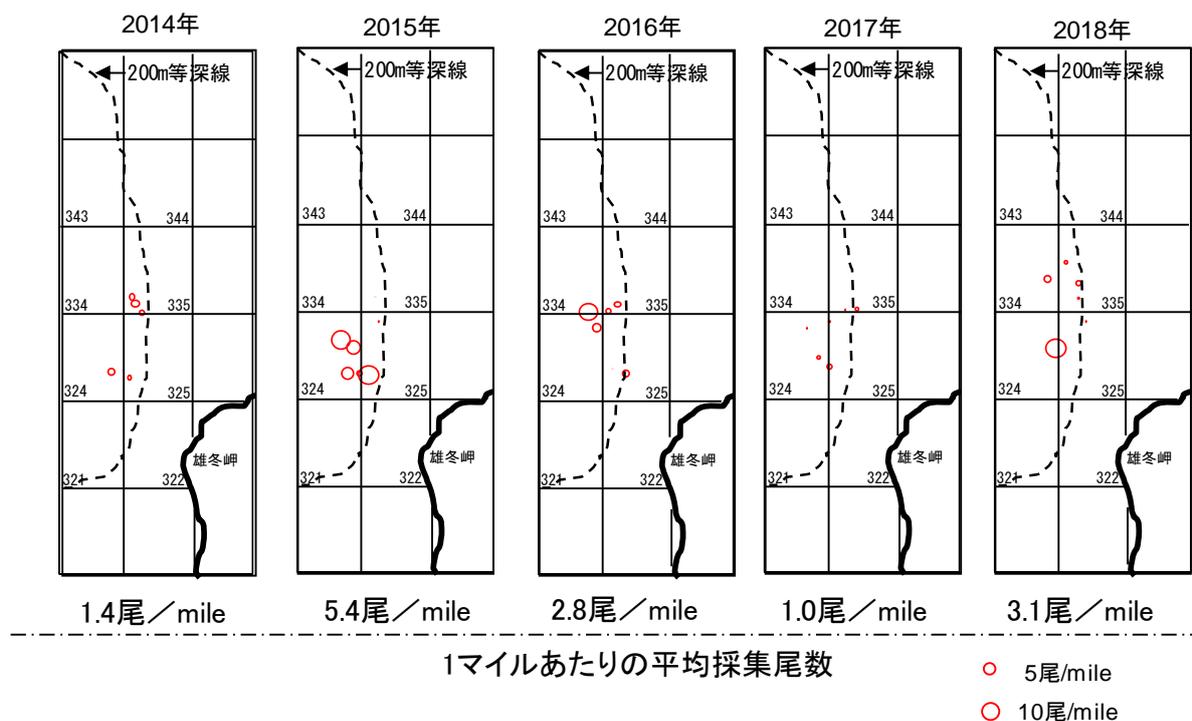


図1 9月トロール調査による採集尾数

2. ハタハタの体長と年齢 (図 2)

例年、この時期の調査では雌の採集は少なく、今回の調査では雄 23 尾に対し、雌は 10 尾でした。雌雄合わせた年齢の内訳では 1 歳魚 (2017 年級:2017 年生まれ) が 58%, 2 歳魚 (2016 年級) が 42% でした。ただし、1 歳魚はまだこの時期には雄冬沖にあまり分布していない可能性もあるため、今後の調査結果を踏まえる必要があります。また、ここ数年は回復傾向にあった「魚体の小型化」について、今年はまだ再び小型化の傾向が顕著となっていることから、今期の漁獲物は小型魚が主体となる可能性があります。

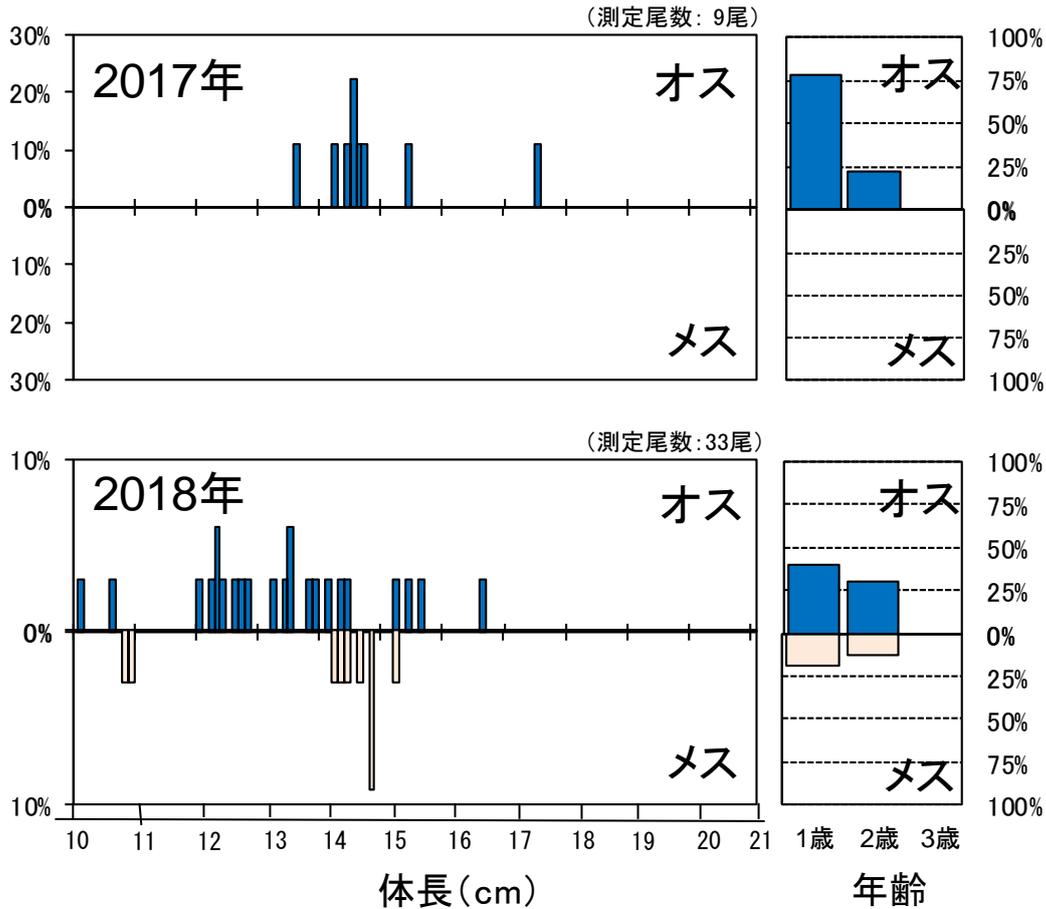


図 2 今回の調査で採集されたハタハタの体長組成と年齢組成
上段図: 昨年 (2017 年) 調査 下段図: 今回の調査

3. 成熟状態 (図 3)

ハタハタは成熟状態 (生殖巣の発達状態) が進むにつれ、南下し沿岸にて産卵することが知られています。雌の体重に占める卵巣重量の割合 (GSI) は産卵が近づくにつれて大きくなり、沿岸に来遊する頃には 40 前後の値となります。今回得られた標本のうち成熟状態にある雌の GSI に基づき、これまでの調査結果と対比するため 9 月末時点の値として推定しました。

その結果、今回の調査では 1 歳魚, 2 歳魚ともに成熟状態は図からは遅めで進行

しているように見て取れますが、標本数が4尾ずつと少ないため、今回の調査結果から成熟の進行具合や沿岸来遊時期を判断するのは困難です。次回10月のトロール調査結果に基づき改めてお知らせする予定です。

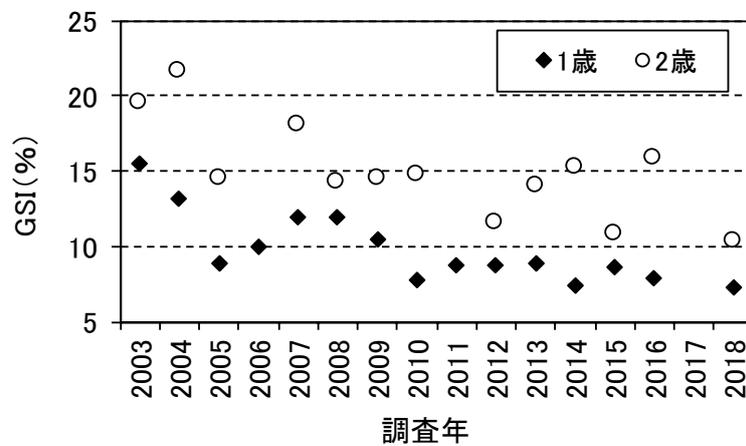


図3 9月下旬のハタハタ雌のGSI (GSI=卵巣重量/内蔵除去重量×100)
※2017年は雌の採集なし

4. 水温 (図4)

今回の調査中に実施したCTDによる雄冬沖(321漁区北側~325漁区の範囲)の表層から底層にかけての水温測定結果を、過去5年の平均値と併せて示しました。

今回の調査では、表層水温は過去5年と同程度、水深30~50m付近の水温は高めでしたが、水深50m前後に躍層が発達しており、それ以深では過去5年より低めの水温となっていました。

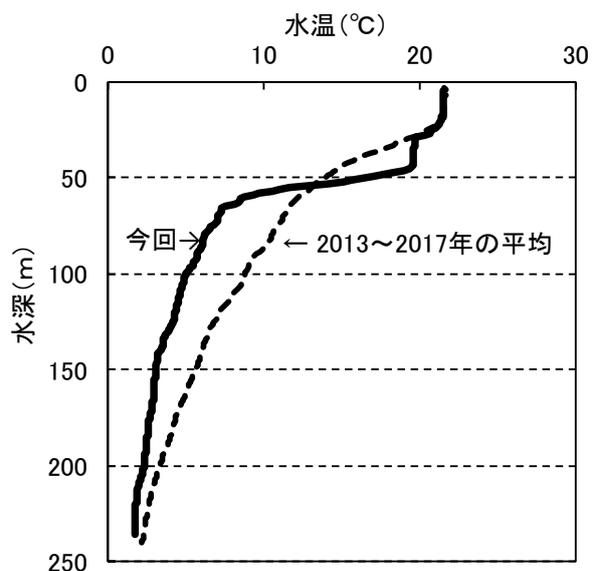


図4 雄冬沖の水温分布

5. 今後の調査など

次回の北洋丸によるトロール調査は、10月中~下旬に雄冬沖のハタハタ分布域を含む海域で、スケトウダラやニシンの分布調査を兼ねて実施する予定です。例年のことではございますが、付近の海域で操業中の漁業者の皆様には何卒ご配慮いただきますよう、よろしくお願いたします。また、漁期中には漁獲物標本の採集調査も実施いたしますので、重ねてご協力をお願いいたします。